

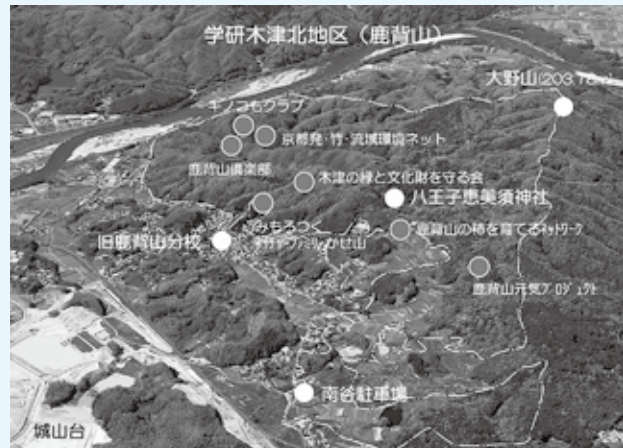
～「学研木津北地区」というのは鹿背山の里山のこと 里山活動を楽しみながら、里山再生に取り組んでいます～

鹿背山の里地里山とは

集落とそれを取り巻く二次林、農地、ため池などで構成される地域のことで、農林業などに伴うさまざまな人間の働きかけを通じて、環境が形成・維持されてきました。

野生の桜は種をつければ、また生えて同じ子孫を残しますが、ソメイヨシノなどの園芸品種の桜は、実生を育てても親と同じ花は咲きません。

原生林は自身で更新しますが、人間の働きかけを通じて環境が形成・維持されてきた里山は、人が接木をして次の世代を残さなければ同じ子孫を残せないソメイヨシノと同じで、人々が自然と寄り添いながら作り上げてきた自然環境です。



里地里山の危機

しかし、人口の減少や高齢化の進行、化石燃料の普及により雑木林から薪や炭などのエネルギー源を得ることが少なくなったことから、里山林や農地などの利用を通じた自然資源の環境が少なくなることで大きな環境変化を受け、里地里山における生物多様性は、質と量の両面から劣化が進みました。

鹿背山での取り組み

活動団体による伝統的な里地里山の利用・管理手法の再評価、保全活用につながる新たな利活用法の導入、周辺開発地の住民や企業CSRなど多様な主体の参加により、里山の保全活動を進めています。

持続可能な里山整備システムを構築することで10年後にも一般の人が入れる里山であるような保全活動の持続性が求められます。



里山の落葉樹

ヤマザクラ

昔から日本各地に自生し、愛されてきた桜です。町でよく見かけるソメイヨシノは花が満開になった後で新しい葉が出てきますが、ヤマザクラは花と一緒に新しい葉がでできます。

鹿背山の里山でもよく見かけますが、自然に育ったものがほとんどです。いつもは目立たなくても、花が咲く春には里山を華やかに飾ります。

材木は硬くて強く、磨けば光沢が出るので、高級家具や楽器、建築などに使用されます。また、香りのよさから燻製を作るときのスモークチップにも使われます。

鹿背山でも、このような使い方ができれば、自然劣化を少しでも食い止めることができるでしょう。

クヌギ

樹液は、カブトムシやクワガタムシの大好物です。成長は早くて15～25年ほどで切れる大きさになります。

ブナは実生からしか更新しませんが、クヌギは木を切っても切り株から新しい芽が出ます。(萌芽更新)

鹿背山の里山では中心的な木で、秋には丸いどんぐりが実ります。

生長が早く、薪などの燃料として利用されていましたが、燃料革命により伐採されなくなったことにより、鹿背山の里山では大径木になっています。

里山へGO！（里山活動に参加してみよう）

👉STEP1 活動団体から、参加してみたい団体を探そう！

👉STEP2 参加したい団体が決まったら、メールなどで活動体験を申し込もう。後日、活動日を連絡します。

👉STEP3 活動日の連絡があれば、服装や持ち物を準備しよう。※自然の中での活動にはちょっとした注意点があるので、活動団体の話をよく聞こう。